

平成20年第4回定例会 一般質問

会 議 録

平成20年12月16日（抜粋）

一 般 質 問 通 告 書

古河市議会議員（7番）園部 増治

平成20年12月9日（から平成20年12月19日まで）の第4回古河市議会定例会において、古河市議会会議規則第62条第2項の規定により、一般質問の通告をします。

質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 を 求 め る 者
選挙公約とその成果について	1. 南古河駅の早期実現について	市長
	2. 筑西幹線道路の4号バイパスから西側の取り組みは	
	3. 駅西地区への消防署の設置について	
ゼロ予算アクション事業について	1. 地域ボランティア推進委員応援事業について	市長・教育長
	2. 職員による出前講座について	
	3. 古河「市民体操」制定事業について	

[7番園部増治議員登壇]

○7番（園部増治君）7番議員、園部増治君）7番議員、朋友会の園部増治です。議長のお許し

をいただきましたので、質問通告に従い、2件、6項目につきまして執行部の御見解をお伺いいたします。

まず初めに、市長の選挙公約とその成果についてお伺いいたします。平成17年9月12日に旧古河市、旧総和町、旧三和町の3市町が合併し、新生古河市が誕生してはや3年3カ月が経過いたしました。平成17年10月16日に行われました市長選挙におきまして白戸市長が見事に当選をされまして、初代市長に就任されました。市長におかれましては、公約に掲げられておりますとおり、「市民が安心して住める安全なまち、市民と行政が信頼というきずなで結ばれたまちを創造するために、速やかに旧3市町相互の融和を図り、古河市民の一体感を醸成して、市民と歩むまちづくりの先頭に立って邁進いたします」、このような考えのもとに新市の礎を築くべく取り組んでこられたことと思います。さらに、この公約の中には、「白戸仲久は、合併協議会で策定された新市建設計画の「風格と希望に満ちた“いきいき古河”」の実現に全力で取り組みます。そして、市政を常にガラス張りにして、情報を市民に公開して、対話と参加を進めながら互いの信頼を醸成しつつ、市民と行政、市民同士の垣根や障害をなくし、安心して住めるまち、バリアフリーシティー古河を創出します」、このように掲げられております。そして、「白戸仲久は約束します」ということで、その中に「南古河駅を早期に実現します」、「JR宇都宮線の新駅周辺において新市街地の形成に努め、新駅設置の実現を図ります」、そして接点開発、今名称が変わりましたが、「接点開発と筑西幹線道路の建設を促進します」、「国、県、市が一体となって推進している筑西幹線道路の整備促進とJR宇都宮線新駅までの延伸を図ります」と約束をされております。これらの2つの事業は新市建設計画における先導的プロジェクトにもなっており、市民の期待は大きく、3市町の一体感を醸成する取り組みとしても価値あるものと思われれます。

南古河駅につきましては、昨年9月議会において300万円の調査費をつけていただき、先般概要について御報告をいただきました。御報告によりますと、南古河駅は市民アンケート調査で関心の高いプロジェクトであり、県の上位計画、元気いばらき戦略プランにも示されており、平成28年開業とした場合において、その時点での利用者予測は駅勢圏3キロメートルで1日8,600人、駅勢圏を2キロメートルに絞ったとしても6,800人になるとの調査結果が出ております。ここ御報告をいただきましてから、議員の皆様からも南古河駅が一步近づいたのではないかという声も聞かれ、心強く感じておるところであります。南古河駅の早期実現に向けての市長の考えと、これまでの取り組みと成果について、また調査結果を踏まえて今後どのように取り組んでいくのか、市長のビジョンも含めて御見解をお伺いいたします。

次に、筑西幹線道路の整備についてであります。南古河駅と一体的な整備をすることで交通の利便性は飛躍的に向上しますし、経済波及効果も高く、市の活性化につながるものであり、市民の期待も大きなものがあります。さらに、筑西幹線道路の整備は、国道354号線の慢性的な交通渋滞の緩和にも役立つものであります。4号バイパスから西側についての整備につきましては、これまでの取り

組み、また今後の整備についてどのように考えているかお伺いいたします。

3点目は、駅西地区に消防署を設置することについてであります。消防職員並びに消防団員の皆様におかれましては、市民の生命、財産、身体の安全を守るという崇高な使命のもとに日夜御尽力を賜っておりますことに心から敬意と感謝を申し上げる次第であります。この件につきましては、昨年、平成19年6月の第2回定例会におきましても質問をさせていただきました。平成13年3月に古河消防署の新庁舎が中田地区に移転したため駅西地区の消防防火体制が手薄となっしまい、万一の火災のときには大変心配だという声があります。白戸市長はいち早くこのような声に耳を傾け、駅西地区に常設の消防署を設置するという公約を掲げ、当選をされました。前回の答弁では、私も公約なので忘れておりません。消防署は広域市町村圏の事務になっていますが、合併によって11市町村から7市町となりました。昨年の質問でありますので、平成19年、昨年1月、「各市町間での合意、再配置計画をつくる話が進んでいます。駅西地区を含め、市民の皆さんが安心、安全に生活ができるように公約は必ず実現させたいと思います」と述べられております。広域市町村圏事務組合においてはどのような提案をされましたか。再配置計画をつくる話はその後どのようなようになっていますか。また、時期的にはいつごろになる予定か。今後のスケジュールはどうなるのかについてお伺いいたします。

次に、2件目のゼロ予算アクション事業について質問をさせていただきます。ゼロ予算アクション事業とは、事業として特段予算措置をすることなく、職員一人一人の積極的な創意工夫のもと、人材や施設などの資産、広報や情報などの機能、市民や民間との協働、連携などのネットワークを活用して行政サービスの一層の向上を図るというものであります。内容としては、民間との連携、職員によるアクションボランティア、創意工夫により予算化せず事業を推進する、市民への情報提供、この4つの柱のもとに25の事業が展開されております。その中から3事業についてお伺いいたします。

まず初めに、地域ボランティア推進委員応援事業についてであります。この事業は、市の職員の中から市内の自治組織ごとにまちづくりの担当職員を登録していただき、地域の抱える問題解決、まちづくりに関する企画と連絡調整などの役目を果たし、市職員と地域住民との協働によるまちづくりを推進するという大変すばらしい事業であると思います。私は、本年度行政自治組織の再編が行われましたが、大堤行政区の区長をさせていただきましたが、総和地区におきましては町内会への補助金が全額カットになってしまったり、また町内会長の手当もカット、三和地区におきましても行政区長の報酬が大幅に減額になってしまったところもあり、自治組織の運営に大変苦勞をされているところがあります。また、市全体を20地区に分けて活動してください、活動していただければ補助金を出しますということですが、とは言われても、三和地区のようにコミュニティーが確立されているところはいいわけでありませけれども、なかなかすぐに活動できるものではありません。こんなときだからこそ、市の職員が各自治組織に入って、ボランティアでまちづくりに関する企画や人の連絡調整を果たしていただけるというこの事業に大きな期待をかけているところでありませ。いち早く取り組んでいただきたいと願っておりますが、いつこの事業が開始されるのか、またどのように取り組んで

いくのかをお伺いいたします。

次は、出前講座についてであります。この事業は、市民との協働のまちづくりを推進するために市職員が市民主催の集会や会合に出向いて幅広い分野での市政等についての説明をするという事業であり、情報公開や説明責任を果たしつつ市民の要望を把握し、そして市民から寄せられた生の声を事務や事業に役立てていくものとされています。私の行政区におきましても、7月5日にメニューの中から「走れ！ デマンド～乗り合いタクシー導入～」と「古河の未来予想図」という2つのテーマで出前講座をしていただきました。職員がとても熱心に丁寧に説明をしていただき、意見交換もできて、大変有意義な出前講座でした。本年度取り組まれた講座について、講座の内容や回数について、またこれからの取り組みについての御所見をお伺いいたします。

3点目は、市民体操制定事業についてであります。この事業は、合併3年目を迎え、さらに市民の融和を図ることを目的に、古河の市民体操を制定いたします。体育指導員等を中心に、新古河市にふさわしい体操プログラムを作成し、市民運動会や各学校運動会などで実施することにより、市民の健康や体力の増進を図るという趣旨のもとに行われているとのことですが、この事業の進捗状況と今後のスケジュール、さらに普及に当たっての考え、取り組み方をお伺いいたしまして、1回目の質問といたします。

○議長（宇都木信太郎君） 暫時休憩をいたします。

午前 11時 56分休憩

午後 1時 1分開議

○議長（宇都木信太郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

執行部の答弁を求めます。

初めに、白戸市長。

〔市長白戸仲久君登壇〕

○市長（白戸仲久君） それでは、園部増治議員の一般質問に対しましてお答えをさせていただきます。

まず最初に、選挙公約とその成果についてということで、(1)、南古河駅の早期実現にということと、(3)の駅西地区への消防署の設置について、それから大きな2番でゼロ予算アクション事業についての中の職員による出前講座についてということでの3つについて私のほうからお答えをさせていただきます。

まず、南古河駅の早期実現についてということでございますが、これは何度も同じように答弁をさせてもらっておりますけれども、設置に向けた取り組みということでございますが、平成11年度に行った基礎調査、この業務につきましては、IT化の進展あるいは社会状況が著しく変化していることから、東北本線、(仮称)南古河駅新駅設置計画基礎調査見直し業務を実施をしたところでございま

す。議員が言われたとおりでございます。今後この南古河駅設置を具体化するためには、地元の皆さんの合意に基づく大堤南部土地区画整理事業、これを推進することが次の段階となると強く認識しているところでございます。また、その間は引き続きJR大宮支社への要望活動を行ってまいりたいというふうに思っております。事業の推進につきましては、財政状況あるいは実施計画における市全体の各事務事業調整の中で優先順位を設けながら事業の推進を図ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

それから、駅西地区への消防署の設置についてということでございます。これも以前にお答えをしておりますけれども、消防署の配置につきましては、議員も御存じのように、茨城西南地方広域市町村圏事務組合7市町で構成をしておるわけでございまして、この組合で決定する事柄でございますけれども、私は先ほど議員からも指摘されたように、当然こういったことを選挙公約としたわけでございますけれども、現在この広域事務組合において消防施設再配置計画審議会、これを設置いたしましたし、駅西地区に消防署が配置されるかどうかということも検討していただいております。この各地域の状況を含め、構成7市町、どのような配置が望ましいのかということも今検討中でございます。なかなかこの構成市町、どこも財政的に厳しいものですから、そういった賦課金をいかに少なくするかというようなことで、かなり大胆な今再配置計画をやっているというところでございます。これは現在まだ進行中ということでございまして、結果としては出ておりませんが、この際市として考えることではございますが、有事の際における消防ポンプ車の到着に時間のかかる駅西地区等におきましては市民の生命、財産への被害を最小限に食い止めるという意味から、地域の住民が迅速な初期消火活動をするために消火栓付近に消火用のホースの格納庫を整備する自治会、あるいは自主防災組織、こういうものを対象に補助制度を来年は考えていきたいというふうに思っております。近隣の市町でも一部こういったことをやっているところがあるようでございますが、今申し上げましたように、消防施設再配置計画審議会、この結果をまっていたのでは、まだまだ2年、3年と恐らくかかってしまうと思いますので、とりあえずはこういうふうなことを来年は考えていきたいというふうに思っております。

次に、職員による出前講座、これについてでございます。この事業は、園部議員も御承知のとおり、ゼロ予算アクション事業として今年度から新たに始まったものです。この出前講座を実施する目的は、市民の皆さんへの情報提供と対話の一環として、市職員が市民の皆さんの要望にこたえて地域に出向き、市の施策や、あるいは事業、合併後の古河市の状況など、制度の変更などについてもわかりやすく説明をして、市政への理解を深めていただくためです。さらに、市職員が直接市民の生の声を聞くことによりまして、寄せられた意見とか提言を事務事業の見直しなどに役立てていくことでございます。

現在講座のメニューとして、生活や教育、あるいは文化などジャンル別に40のテーマを設けてございます。そこで今までの実績を申し上げますと、12月1日現在で46件の講座が実施されており、ジャ

ンル別では健康、福祉に関するものが22件と一番多くなってございます。また、申し込み団体は自主的なグループ、あるいは自治会及び町内会など多岐にわたっており、受講者からは、内容もわかりやすく、よく理解でき、大変有意義だったというような感想も多数寄せられております。今後ともその時々々の社会情勢や行政に関する新しい情報など、市民の皆様にごできる限りしゅんのメニューを提供していきたいというふうに考えております。

新古河市も合併して3年が経過し、古河市のまちづくりやこれまでの基礎づくりから、合併のメリットを生かしながら、改めて合併効果が実感できるまちづくりを目指して邁進していかなくてはなりません。そのためには市としても出前講座等を含めた情報提供の充実を図っていくことが大切であり、このことは私の選挙公約でもあります対話と参加のまちづくりの実践、そしてそれは職員の意識改革にもつながっていくものというふうに考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（宇都木信太郎君） 次に、岡安都市計画部長。

○都市計画部長（岡安喜三男君） 私のほうから筑西幹線道路についてお答えさせていただきます。

筑西幹線道路については、新4号国道から諸川谷貝線までの3.3キロメートルについて、平成24年度の開通を目標にいたしまして今全力で取り組んでいるところでございます。

御質問の新4号国道から西側の取り組みということでございますけれども、これについては概略のルートについては発表させていただきました。具体的にどうかといいますと、いろんな課題がございまして、特に先ほどから話が出ています南古河駅の問題、あるいは女沼川の問題、特に女沼川については新幹線と女沼川と筑西幹線道路が交差する部分がありますので、その辺の問題がクリアできないと具体的な計画に入れないというふうな状況でございますので、その辺の状況を今見ながら取り組んでいるというところでございます。

なお、つけ加えさせていただきますと、女沼川改修については建設部のほうで県あるいは国に積極的に改修の要望を行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（宇都木信太郎君） 次に、須藤市民生活部長。

○市民生活部長（須藤 厚君） 私のほうからはゼロ予算アクション事業の中の地域ボランティア推進委員応援事業ということで答弁をさせていただきたいと思っております。

ことしの4月から、新体制であります古河市行政自治会として230の自治会、行政区を20地区に区分してスタートしたところでございます。現在自治会や行政区内、また地区内でのさまざまな問題点があります。統一に向けてその諸問題についても今現在地区長会議を行いまして、進めて協議をしているところでございます。

このような状況の中で地域ボランティア推進委員応援事業につきましては、現在地区長会議へ提案する前に行政自治会のほうの正副会長との協議を行っているところであります。また、庁内における

体制づくりを進めるためにも、職員が地域活動へのかかわり状況の把握、それからまちづくりに対しての意識調査などアンケートによって担当職員の選定等の対応を考えているところでございます。

今後そのアンケート結果をもとに、20地区の活動をサポートしていく体制づくりということで、地区長の役割などについても、園部増治議員のほうからありましたように、まだ地区でも苦慮している状況だということもございますので、地区長とか、あとは自治会長、それから行政区長、そういったものを集めまして後援会などを開催しまして、共通理解を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（宇都木信太郎君） 次に、田辺社会教育部長。

○社会教育部長（田辺岳雄君） それでは、私のほうから、ゼロ予算アクション事業についての古河市民体操制定事業につきまして御質問がございましたので、お答えさせていただきたいと思っております。

現在古河市におけるラジオ体操等の取り組みにつきましては、健康増進やコミュニティーの推進を図るというふうな目的のために、古河庁舎中庭や福祉の森会館敷地内におきまして地域の近隣住民の方々約二、三十名の方が自主的に集いまして、NHKのラジオ体操等を活用いたしまして定期的に行っているところでございます。また、各地域の幾つかの子ども会におきましては、夏休みを利用して10日間程度実施されているというような状況でございます。

そのような中で古河市民体操の制定事業につきましては、ゼロ予算アクション事業の一環といたしまして、先ほど議員からもありましたように、特段の予算措置をすることなく、古河市の特色を出しながら市民の健康増進や向上を図るため、幼児から高齢者までのだれもが気楽に取り組みをし、独自の体操を制定するというような目的といたしまして取り組んでおるところでございます。

そこで、その進捗状況についてでございますけれども、現在制定に向けまして古河市体育指導委員会の企画部会が中心となりまして、NHKラジオ体操と比較いたしまして体に負担の少ない軽やかな動きを取り入れながら、現在振りつけ等について数回の会合を開いて、ビデオ等でそれらを撮りまして検討しているというところでございます。今後それらの動きに合わせまして音楽を組み込むようなことになるわけでございますけれども、それにつきましては、古河市内の中学校の音楽の先生に依頼いたしまして、今後それらを取り入れながら、平成21年9月ごろまでには完成できるよう詰めていきたいというふうに考えているところでございます。したがって、今後の事業展開でございますけれども、市民体操が完成いたしましたら、体育指導委員会が主体となりまして、市民運動会や、また市内の小学校や老人会、子ども会といったさまざまな団体の普及活動を行いながら、市民だれもが音楽に合わせて体操が実践できるよう推進していく予定でございます。

以上でございます。

○議長（宇都木信太郎君） 答弁は終わりました。

園部増治議員の再質問を許します。

○7番（園部増治君） それでは、自席より再質問をさせていただきます。

1件目の市長公約とその成果についてということで御答弁をいただきましたが、3点に絞ってお伺いをしたわけでありまして、3年が経過いたしまして本年度は市長の任期最後の年、集大成の年ということになると思いますので、その質問をさせていただいているわけでありまして。

特に1点目の南古河駅についてでありますけれども、南古河駅は市民の長年の懸案にもなっておりますし、また合併における新市建設計画、この先導的プロジェクト、何度も申し上げますが、第1位に掲げられているということでもありますし、また市長も公約として掲げておりますので、私は真っ先に取り組むべきプロジェクトではないかと考えております。10年後、20年後、自分たちの子供たち、あるいは孫たちの代まで、合併して本当によかったと言えるような、そんなまちづくりをしていかなければならないと思っております。南古河駅ができ上がりますと、経済波及効果も大変大きなものがあり、JRに駅を移管したとしますと、その日から固定資産税収入等の財源確保にもつながりますし、またこの駅ができますと高等教育機関、中高一貫校というようなお話もありますが、そういった高等教育機関の誘致も夢ではなくなると思っております。

このような、多くの市民が期待をかけているプロジェクトであります。私のところにもメールをいただいております。南古河駅早期実現に向けて要望書に署名をいただいた方ではありますが、「私たちは昨年の今ごろ古河市へ新居を構えました。ことしの4月よりさいたま市への転勤になったことから、通勤圏での新居を計画し、今のけやき平に落ちつきました。南古河駅ができることも期待してのことですが、これまでの事情を収集すると、実現性が非常に難しいのかな。市長も本当にやる気があるのかなと疑問に思うこともあります。私は今パーク・ライドで栗橋駅を利用していますが、境町や古河南地区の通勤者は不便です。特に利根川橋を越えるために時間的なロスが大きく、大堤から中田にかけて駅ができれば非常に通勤が楽になります。目先のことでなく、将来の子供たちがここで生まれてよかったと思う、そんなまちづくりをお願いしたいです。古河市を後悔のない永住の地として選択した一市民として古河市の発展に協力したいです」、このようなメールをいただいております。私はこれが本当の市民の声ではなかろうかと思っております。そういった市民の声を私も議員として代弁をしているところであります。

今公約して掲げたからには、市長に求められることは、やはり地元で反対の看板があるからできませんよというような、そういうことではなくて、行政として精いっぱいできる限りのことをしますから、ぜひ皆さん、協力してください、そういった誠心誠意の取り組む姿勢、私はこれを住民は期待しているのではなかろうかと思っております。やはりそういった誠心誠意の取り組みをすれば必ずできることとも思っておりますが、もしそういった形でできないとしても、住民は納得してくれるのではないかなというふうには思うのです。例えば、予算をつけていただいたり、市役所の職員の体制、特に駅をつくるといいますと、周辺整備の区画整理事業と、それから駅の推進と一体的なプロジェクトチームをつくらなくては無理だと思いますので、そういった職員体制を整えていただく。また、お金もかかるということでもありますので、きちんと基金を積み立てていって、それに備えていただく。こ

のようなことをしていただければ、私は必ずできるものと思っております。皆さんが期待しております。応援しておりますので、市長もぜひ、今度予算編成があると思いますが、来年度の予算にこういったことが反映されまして、先ほどの市民の方の御意見がありました、こういった御意見も払拭できるような形での予算が組まれますようお願いをしたいと思います。市長の御答弁をお願いいたします。

次に、4号バイパスから西側の筑西幹線道路の取り組みについてということですが、女沼川の改修、これがネックになっているということですが、ぜひ国あるいは県にも働きかけていただきまして、下流から今やっていただいておりますが、つくば古河線まで来るのに10年ぐらいかかってしまうというお話も聞いておりますので、筑西幹線道路はさらにその上流でありますので、早目に河川の計画を立てていただき、道路整備の中でその部分に対応していかななくては早目にできないのではないかと聞いていますから、ぜひ県あるいは国との協議を一日も早くしていただき、進めていただくようお願いをしたいと思います。

3点目は、駅西地区への消防署の設置であります、広域市町村圏事務組合の中で再配置計画を検討しているということですが、その計画を今進行中でありまして、その計画を待っていると、ちょっとまだいつになるかわからないというような形で、消火用のホース、これが自主防災会などで使えるような、そういう取り組みを先行してやっていきたいというような答弁だったと思います。住民の方は、今どんなふうな取り組みがされているのかなということがわからないと非常に不安だと思います。したがって、今のこの消防署に関しましても、こんな進捗状況になっていますよ。それに対して、こういう形で現在の対応方法としては対応させていただきたい、こういうことをきちんと説明をしていただき、住民にわかりやすく説明していただければ、そういうことになっているのかということで住民も納得しますし、御協力もいただけると思います。きちんと説明をしていただくようお願いをしたいと思います。御見解をお伺いいたします。

さらに、地域ボランティア推進委員応援事業でありますけれども、各自治会、それから各地区、いろんな問題を抱えているということですが、統一に向けて今過渡期にあると思われまして、こういった問題点を一つ一つクリアしながら進めていただければと思っております。

そして、行政区あるいは自治会ももう今年度は年度が終わりに近づいていますので、正月明けますと来年度の役員を選出したり、事業の計画を立てたり、予算を組んだりというような形になって、来年度への引き継ぎの体制をもつくるような時期になってきているのではないかと思います。そういった中で、また本年度と同じような取り組みのままでいきますと、各行政自治会でも戸惑いがあるところもあると思いますので、なるべく早くこの推進委員ですか、職員を地区に配置していただければ配置をしていただき、来年度に向けての取り組みの中で活躍していただくようお願いをしたいと思います。特に総和地区におきましては、小学校区とも違いますし、そういった地区組みがなされております。今まで何も活動してこなかったわけありますので、そういった中での

活動ということになりますと、やはり雲をつかむような形だと思います。そんな中でやはり具体的にこういった事業とか、こういった取り組みをされるといいのではないですかというような、そういった具体的な内容も示していただいて、何か小さいことから一つ一つでも取り組んでみてくださいというようなことで、職員と、それから自治会の役員あるいは住民の方が一緒になって取り組んでいけば、いいまちづくりはできるのではないかと思います。そういった形での取り組みがしていただけるかどうか、御所見をもう一度お願いしたいと思います。

さらに、出前講座であります、しゅんのメニューなども取り入れてメニューをふやしていきたいというふうなことだったと思います。それと、市民の要望等も、こういったメニューも入れてくださいというのがありましたら、そういうこともぜひ取り入れていただきまして、またたくさん出前講座につきましてもPRをしていただいて、市民に利用していただくようお願いをしたいと思います。おいしいメニューがあれば、また私も注文させていただきたい、このように考えていきたいと思いますので、よろしくをお願いしたいと思います。この件に関しましては、答弁は結構でございます。

市民体操制定につきましてもありますけれども、現在振りつけを検討しているところだということで、音楽の先生に音楽も考えていただくのだということでもあります、平成21年9月ごろを目指してこれをつくり上げたいということだったと思います。つくるのはつくれると思うのですけれども、この宣伝普及、これにはやはりある程度お金がかかってくるのではないかなという気もするのですけれども、ゼロ予算という、大変な中で職員の方も取り組まなくてはならないのではないかなというふうに考えておりますし、頭の下がる思いでありますけれども、この普及宣伝についてはどのような形で普及をされているのか。せつかくつくるからには、長く市民に親しんでいただくような、そういう体操にしていきたいと思っておりますので、その辺のことをもう一度御所見をお伺いいたしまして、2回目の質問とさせていただきます。

○議長（宇都木信太郎君） 執行部の答弁を求めます。

白戸市長。

○市長（白戸仲久君） ただいま第1回目の質問にお答えいたしましたように、これからの段階といたしましては、大堤南部の土地区画整理事業、これを進めていかなければならないということが次の段階でございます。ただいま園部増治議員のほうから話がありましたようなことで、市長がやる気がないからとか、どうかは知りません。やる気は満々なのですけれども、地元は何ととっても協力していただかなければできないということでございます。これは私も何もやらなかったわけではございませんで、都市計画部長とも断固反対の代表の方のところへも行ってきておりますし、その結果聞かせてくれと頼んできたのでありますけれども、これもテーブルにはついていただけません。そしてまた、私にも直接の返事はなくて、担当のほうへしか返事はなかったというような状況でございます。園部増治議員も当然そういうことで早急にとということでございますけれども、私は園部増治議員以上にやっぱり早急にとというふうに思っておりますけれども、これも原始的に言うならば、当然合併特例債が

使えるうちでなければこのこともできませんし、これは私の私見でございますけれども、やはりどうしても南古河駅の区画整理事業は合意形成ができなければ、やっぱり違う方法はないのかという方法も考えなくてはならないのかなということも、実は、私見ではございますけれども、頭の中ではちょっとぼんやりと考えているというようなところでございます。ぜひそういったことで、最初の計画どおりできることがこれはベストであることはだれも間違いないのでございますので、ぜひ、そういったことは好ましいのでありますが、今のところそんなことで、本当にその辺は私としても悶々としているところでございます。

また、次の地域ボランティアの推進委員の応援事業、これは担当のほうからも説明があらうかと思っておりますが、私もことにつきましては、ことし4月から20地区に地区制をとりまして、そしてそれぞれの地区で防犯活動やら防災活動やら、いろんなことを、あるいは環境問題とか、そういったことの取り組みをしていただきたいということでございますけれども、三和地区で非常にこれが、コミュニティーが活発に行われておりますけれども、この三和地区のコミュニティーをちょっと調べてみますと、平成5年にこれをスタートしたそうでございます。実に15年の歴史があつて、今日の三和地区のコミュニティー活動になっております。したがいまして、今園部増治議員から御質問がありましたように、私も担当には、早くいろんな、何をやったらいいのか。地区長に事業補助金がありますよといつても、何をやったらいいかわからないというのが事実ではないかということで、地区長たちにいろんな事例を紹介したり、また後援会をやったり、また具体的にこんなことをやったらどうでしょうかというような、そういったものを、専門的な人からの指導も得たらいいだろうと。そして、しっかりと地域がまとまっていくような、そういうコミュニティーの活発な古河市にしていくことがいいのではないかとこのふうなことで担当にも話をしております。

細かいことは担当から説明があらうかと思っておりますけれども、そういうことで答弁とさせていただきます。

○議長（宇都木信太郎君） 次に、岡安都市計画部長。

○都市計画部長（岡安喜三男君） 筑西幹線道路に関して積極的に国のほう、県のほうにというようなことでございますけれども、筑西幹線道路を実際の実施計画をする上でいろんな細かい問題があるのでございますけれども、一番大きな問題としては、女沼川と新幹線と筑西幹線道路が交差する部分の河川をどうするかという問題があらうかと思っております。そういう中で、女沼川についてはその筑西幹線道路の問題もありますけれども、古河市として今県で認可をとっているのは、久能中田線までの県道までですから、その上を整備するということは、ひいては丘里工業団地あるいは東牛谷の水の問題も含めてやらなければならない事業だと思っておりますので、私は直接の所管ではないですけれども、建設部のほうもかなり、市長あるいは議長、委員長なんかも含めて県とか国のほうに強い要望をしているところでございます。

また、国のほうも、利根川に落とす、积水の事務所の近くなのですけれども、そこに樋管をつくら

なければならぬということで、その辺の話、早く樋管をつくってもらわないと水が落ちないということですので、早くつくってもらうのもあわせて要望をしているところでございます。

以上です。

○議長（宇都木信太郎君） 次に、古澤環境安全部長。

○環境安全部長（古澤朝夫君） ホース格納庫の設置事業につきまして、市民への周知についての質問がございました。この事業の内容でございますけれども、市民あるいは自主防災会の人たちが消火栓に直接ホースをつなぎまして、ポンプ車が到着するまでの間、消火栓の水圧だけで初期消火を行う事業でございます。住民への周知につきましては、予算を平成21年度当初予算でお願いすることになりますので、議決をいただいた後、早々に広報及び自主防災会担当者会議などで周知をしてみたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（宇都木信太郎君） 次に、須藤市民生活部長。

○市民生活部長（須藤 厚君） では、私のほうからは、地域ボランティア推進委員応援事業につきまして、市長のほうが先ほど申し上げられましたように、地域での職員のほうのいわゆる20地区の活動をサポートするというような体制づくりをちょっと強化しまして、いろんなアンケートをちょっととりながら、今後地区長会議の中でまた意見を出しながら協議をして進めてまいりたいと思います。新体制での古河市行政自治会、まだスタートしたばかりでございますので、その確立に向けて地区との連携をとりまして、市のほうも協働しまして地域のほうの活性化を推進していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいかと思ひます。

以上でございます。

○議長（宇都木信太郎君） 次に、田辺社会教育部長。

○社会教育部長（田辺岳雄君） それでは、古河市民体操の普及宣伝についてどのようにするのかというような御質問でございますけれども、まずは完成いたしましたら、市のホームページや広報紙、これらを活用いたしまして、まず市民等にお知らせを図りたいというふうに考えております。

そして、先ほど申し上げましたけれども、体育指導員が中心となりまして、市内の市民に対しまして市民運動会や子ども会、老人会、あとはチュウレン等のそういう組織がございまして、それらの要請に応じまして、そちらへ出かけて普及宣伝に参りたいというふうなことで考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。

○議長（宇都木信太郎君） 答弁が終わりました。

園部増治議員の3回目の質問を許します。

○7番（園部増治君） それでは、時間もなくなりましたが、3回目の質問をさせていただきたいと思ひます。

まず、2項目めではありますが、ゼロ予算アクション事業ということで3項目についてお伺いをいたしました。地域ボランティア推進応援事業につきましては、地域と連携してこれからも進めていきたいということでありますので、ぜひいろいろな問題もまだ残されておりますので、そういったことを一つ一つクリアしながら進めていただきたいと思います。

さらに、市民体操制定事業でありますけれども、ぜひ市民に親しまれるような体操をつくっていただきまして、またラジオ体操のお話もありましたが、ラジオ体操に取り組んでいるところもありますので、これと一緒にあわせて市民の健康増進等に役立てていただくようお願いをしたいと思います。

それから、1件目に戻りますが、南古河駅についてでありますけれども、私が質問させていただいていますが、私以上に思い入れがあるのだということで市長の御答弁をいただき、大変心強く思っているところであります。合意形成を得るために努力をされていただいておりますが、賛成、反対ということではなくて、この区画整理事業についてもっと全体的にレベルアップするような、そういった勉強会とか説明会、こういったものもしていただくと、より理解が得られるのではなかろうかと思っております。ぜひ市長、その意気込みを来年度予算、これに反映させていただきますよう強く要望をしたいと思います。

また、筑西幹線道路でありますけれども、女沼川との問題が大変大きな問題であるということであり、女沼川におきましても本年8月28日の集中豪雨で決壊をしたりしておるわけであり、その改修に当たりまして強く県あるいは国に要望していただき、できるだけ早く改修ができるようお願いをしたいと思います。それと同時に、上流部分の整備に関しましても協議を重ねていただきまして、筑西幹線道路が4号バイパスよりも西側の取り組みも一日も早く取り組めるようお願いをいたします。

さらに、駅西地区への消防署の設置についてということではありますが、来年度、平成21年度予算に、消火栓を使った地元住民の防災組織によるそういった消火体制をつくるために進めていきたい、そのようなことでもありますので、住民に対してもよくその点につきまして説明をしていただき、住民が納得して安心して生活ができるようお願いをしたいと思います。市長の残された10カ月間、公約実現に向けて誠心誠意取り組んでいただきますようお願いを申し上げまして、一般質問を終わります。

○議長（宇都木信太郎君） 3回目の質問は要望でありますので、以上で園部増治議員の質問を終了いたします。